

# 第3学年 UOI 単元構想案

日 時 平成27年10月20日  
学 級 第3学年きく組 ゆり組  
授業者 石毛隆史

## 「MATSURI」

～菊の子学習～社会科～理科～国語科～音楽科～

Learner profile (学習者像)

Communicators (コミュニケーションできる人)

Open-minded (心をひらく人)

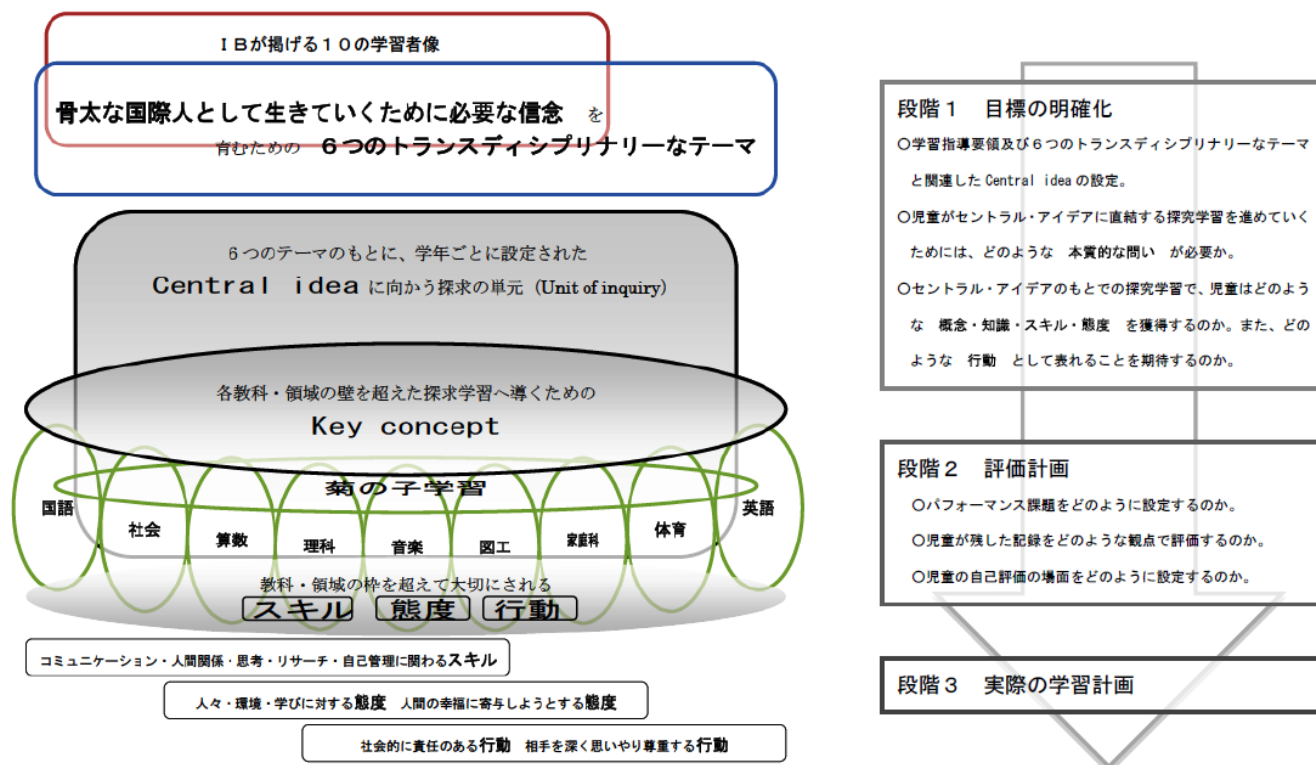
Sharing the planet

対象をより理解するためには、共通性や違いを見つけることが大切である

Key concept (基本概念); causation (原因), connection (関連), perspective (見方)

Attitude (態度); cooperation (協力), empathy (共感), respect (尊重)

### 0 UOI (探究の単元の構想と指導計画作成の段階)



1. What is our purpose?  
(私たちの目的は何か)

Otransdisciplinary theme 教科横断的テーマ

Sharing the planet (地球を共有する)

限りある資源を他の人々や生き物と共有するための権利や責任, コミュニティ内及びコミュニティ間の関係, 機会均等, 平和と紛争解決の探究

Ocentral idea (主要観念)

対象をより理解するためには, 共通性や違いを見つけることが大切である。

Summative assessment task (統括的評価課題)

どのような方法で, 上記の central idea に対する児童の理解を評価できるのか。  
児童の主体的な行動などを含め, どのような根拠に視点を置いて評価するのか。

菊の子学習「祭りを作ろう」において, 学級ごとに祭りを作る作業を終えた上で, 比較したことよかったことについて問い, 学習感想を書かせることで見取る。

Class/grade: 第3学年 Age group: 8-9

School: Tokyo Gakugei University

Oizumi Elementary School

Title: MATSURI

Teacher(s): 伊藤愼悟 石毛隆史 高蘭子  
五町恵理子 角町美穂

Date: 10月16日～

Proposed duration: 6週間

2. What do we want to learn?

(私たちは何を学びたいのか)

どの key concept (form 形式, function 機能, causation 原因, change 変化, connection 関連, perspective 見方, responsibility 責任, reflection 振り返り)がこの探究で強調されるべきか。

Key concept: causation(原因),  
connection(関連),  
perspective(見方)

Related concept: 共通点, 相違点, 比較,

どのような「探究の流れ(lines of inquiry)」で central idea に到達するか。

- ①様々な対象の共通点・相違点に気づく
- ②様々な対象について調べ, 紹介する
- ③自分たちで計画し, 実行する

※祭り＝社会, 祭りを作ろう＝菊の子  
日向と日陰＝理科, 影と太陽＝理科,  
調べて報告しよう＝国語

どのような発問や手立てが, これらの探究を導くのか。

- ・これらは何でしょう? -①
- ・これらの違いは何でしょう? -①
- ・どうしてお祭りをするのかな? -①
- ・興味のあるお祭りを調べてみよう -②
- ・似ているところ・違うところに気を付けて発表を聞こう -②
- ・どんなことが分かった? -②
- ・体験してみよう -③
- ・ふりかえりをする -③

### 3. How might we know what we have learned?(学びをどう把握するか)

※この欄は「4. 最良の学びとは?」と関連づけて用いる。

児童の先行知識やスキルをどのように評価するのか。何をその証拠とするのか?

- ・プレアセスメント: セントラルアイディアを児童に提示し、その時点での児童の理解度をはかる

児童が探究を通して学んだことをどのように評価するのか。何をその証拠とするのか。

- ・教科単元の終わり毎に、学習を始める前の自分の考えと終わってからの自分の考えを比較することで、「共通性や違いについて考えることで、自らの考えが深まった」ということが実感できているか。
- ・祭りについて調べ学習を進める中で、自分と友達の意見の違いや共通性について考えることができているか。
- ・グループごとに祭りについて発表した際、自分たちの調べた祭りと友達の調べた祭りの共通性や違いについて考えることができていますか。
- ・菊の子学習において、実際にお祭りを考える際に、友達と協力して作り上げることができているか。(毎回の授業後の振り返りシートと活動中の見取りから)
- ・菊の子学習において祭りを作っただけで、学習感想を書かせることで、ゆり組の児童との関わりの中で共通性や違いについて考えて話し合いをすすめることができたか。(最終ふりかえりより)

### 4. How best might we learn?

(最良の学びとは)

どのような学習体験によって児童が探究に熱中し、質問に取り組むようになるか。

- ・自分の文化体験を語る
- ・実際に文化に触れる
- ・違う文化を比較して新しい知識体験をする

**transdisciplinary skills** (教科融合スキル) と **learner profile** (学習者像) の特性が発達するために、どのような機会があるのか。

#### transdisciplinary skills (教科融合スキル)

- ・ Social skills

Respecting others(他者尊重):

他者の意見に耳を傾ける

Cooperating(協力):

協力して計画し、実行する

#### learner profile (学習者像)

- ・ Communicators(コミュニケーションができる人): 計画を実施する中で積極的かつ協働的に作業を行う
- ・ Open-minded(心を開く人): 自己の文化、他者の文化を尊重し、大切にする

#### attitude (態度)

- ・ Cooperation(協力): 協力して計画し、実行する
- ・ Empathy(共感): 他者のものの見方にも耳を傾け、深く考える
- ・ Respect(尊重): 対象に理解を示し、私たちの身の回りの世界を尊重する

### 5. What resources need to be gathered?(どのようなリソースを揃えなくてはならないか。)

どのような人・場所・視聴覚教材・関連図書/音楽/美術、コンピューターソフトを準備したらよいか

→祭りに関する書籍、おまつりの写真、祭りに関する資料、おみこしの材料、祭りの映像、祭りの参加者へのインタビュー

探究を促す教室づくり、地域、コミュニティ

→大泉で行われているお祭りに参加している人に話を聞けるようにしておく。

## 2 分科会提案

### 1. 主要単元構成要素について

Learner profile Communicators , Open-minded  
transdisciplinary theme Sharing the planet (地球を共有する)

Central idea **対象をより理解するためには、共通性や違いを見つけることが大切である。**

Key concept Causation(原因) Connection(関連) Perspective(見方)

人や自然と共生したり、物事を上手に利用したり生かしたりするには、まずその対象をよく知ることが第一歩となる。そして、対象（相手）を知るためには自分がどういう関係にあり、どうしたいか、つまり自分を知ること大切になる。そこでは、自分の考えや願いを対象（相手）に押しつけるのではなく、自分と対象（相手）の間に立って、物事や関係を客観視することで、対象の良さや相手の気持ちがわかり、何を大切にすべきかが自分なりに見えてきて、行動していくことでよりよい関係を築いていくことができると考える。

客観視する一つの方法として「比べること」をあげたい。自分と相手や対象とまた別の対象との関係において、比べることは、共通点や相違点を取り出し整理することになり、大切にすべきこと・自分がどう行動していくかの大きな判断材料となっていくからである。

### 2. 評価計画 ～教科横断の探究活動として～

#### <菊の子学習「ゆり組の友達と仲良くなろう」>

##### ○Central ideaにつなげる

3年生のこの時期は、ゆり組の児童との関わりが増えてくる。一般学級に編入してくる児童や、新しく海外から転入してくる児童がいて、お互いに仲良くなりたいという願いをもっている。一緒に遊ぶことも大切にしながら、学習することを通して遊びでは見られない一面も見られることだろう。一つの目的に向かって活動する中でぶつかり合いが生まれ、自分の気持ちと相手の気持ちを比べながら、どうしていったらよいか考え、折り合いをつけていくなどしてよりよい関係を築いていく。

目標・内容	菊の子学習として本校の育てたい児童像（グローバル社会に生きる力） 3年生では初めてのクラス替えがあり、自分の力で新たな友達関係作りを行ってきている。クラス内には同じ学校生活を送る中で、様々なきっかけがちりばめられ、仲良くなるチャンスも多い。遊びを通していつの間にか友達になったという児童も多いだろう。本単元では意識的に友達をより知ることが目的として自分たちで交流場面を作り、自分から積極的に相手に関わり、お互いにわかり合えたという経験を積む。この年代の児童にとって「交流する」とはどういうことか、相手の良さを知りたい、感じたいと思う気持ちをもって、一緒に楽しく活動することであると考えた。自分たちの祭りを作るという一つの目的に向かって、困難も乗り越えて人と関わる有用感も育んでいく。	
評価基準	観 点	具体的な児童の姿（評価方法もふくむ）
	基本概念 ・ perspective ・ causation ・ connection	・ 自分の思いを伝え、相手の見方を受け入れながら考える。 ・ 祭りはみんなでやるからこそ楽しいのであり、それが仲間作りにつながる。 ・ やり方は異なるが思いや目的は同じことがあることに気づく。
	態度 ・ Cooperation ・ Empathy ・ Respect	・ 自分勝手な楽しさではなく、一緒にやる楽しさを味わう。 ・ そういう思いだったんだと人の気持ちがわかった喜びを味わう。 ・ 自分と違うのは当たり前であり、その中から共通点を見いだしながら前向きに取り組む。
	スキル ・ Respecting others ・ Cooperating	・ 祭りを盛り上げる準備をする中で、相手の話を最後まで聞き、相手の考えの良さを見いだす。 ・ 自分の思い通りにする楽しさではなく、相手と一緒に活動すること自体を楽しむ。

## <理科「日なたと日かげ・かげと太陽」>

### ○Central ideaにつなげる

日なたと日かげでは明るさや温度・湿度、植物の生え方や人のくつろぎ方など、様子や利用の仕方が異なる。実際に観察したり、計測したりして、比べながらその特徴を見いだしていくと、日なたと日かげのちがいが、生活に生かされていることにも気づいていくだろう。日なたになる場所に洗濯物を干したり、暑い日には日かげで過ごしたり、日なたと日かげで育つ植物の種類が異なったりする。また、日なたと日かげの場所が一日のうちに変化していくこともとらえる。それは、太陽の動きや見える向きによって日なたと日かげの出来具合が決まっていくからである。比較しながら共通点や相違点を見いだすことでこの太陽の動きや見える向きが大切になることを理解していく。

指導要領 (目標・内容)	B・(3) 太陽と地面の様子 日陰の位置の変化や、日なたと日陰の地面の様子を調べ、太陽と地面の様子との関係についての考えをもつことができるようにする。	
PYP理念における 評価基準	<b>観点</b>	具体的な児童の姿 (評価方法もふくむ)
	基本概念 ・ causation	日なたと日かげの様子の違い、影のでき方は太陽と関係していることに気づく。
	態度 ・ Respect	私たちの生活は自然と関わり合っている。太陽の恵みで成り立っていることを感じる。
	スキル ・ Cooperating	目的意識をもって友達と協力して日なたや日かげ、かげの動きを観察する。

## <社会科「伝統文化や行事を受け継ぐ」>

### ○Central ideaにつなげる

伝統行事の代表として「お祭り」に着目させ、いろいろな祭りを比べることで、お祭りには願い（豊作や健康長寿、地域の活性化）が込められていることや一緒に楽しむことでより仲良くなって地域がまとまっていくことなどの大切にしたいことが見いだされてくる。お祭りから発展して日本と外国の様々な行事や文化について調べて教えあったりすることも理解が深まっていく。

指導要領 (目標・内容)	地域の人々の生活について、見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。	
PYP理念における 評価基準	<b>観点</b>	具体的な児童の姿 (評価方法もふくむ)
	基本概念 ・ connection	2つのお祭りの共通性や違いから、自分たちが調べるお祭りとどこが似ていて、どこが違っているかを関連しながら調べたり、発表したりすることができる。
	態度 ・ cooperation	お祭りについてグループで協力して調べ合ったり、話し合ったり、発表し合ったりする。
	スキル ・ Cooperating	お祭りの共通点や差異点を見つけながら、グループで協力して調べている。

## <国語科「調べて報告しよう」>

### ○ Central ideaにつなげる

自分の調べたい対象を決め、相手に伝わるように報告していく活動。そのものの特徴をつかんだり、得た情報の中からどれを伝えようか情報の取捨選択をしたりする中で、比べて大切なことは何かを見いだしていく。

指導要領 (目標・内容)	<p>A (1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) ① (ア) 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。</p> <p>(イ) 相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>(オ) お互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p> <p>② ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること</p> <p>イ 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。</p> <p>ウ 図表や絵、写真などから読み取った事を話したり、聞いたりすること</p>	
PYP理念における 評価基準	<b>観点</b>	具体的な児童の姿 (評価方法もふくむ)
	基本概念 Causation Connection perspective	お祭りの内容について、お互いの考えの共通点や相違点について比べて整理をし、クラスでどんなお祭りをするのか検討して決めることができる。 体験したことのある祭だけでなく、海外の祭についても視野を広げて比較し、理解を深めることができる。
	態度 Respect	自分の意見だけでなく、相手の意見も尊重し、共通点や s 違いに目をむけながら理解をしようとする。
	スキル Cooperating	どんなお祭りにするか決める話し合いを、司会や提案者などの役割を決め、協力して進めることができる。

## <音楽科「日本や世界のおまつりの音楽」>

### ○ Central ideaにつなげる

日本や世界の様々なおまつりの音楽に親しみ、その特徴や違いを感じ取りながら、よさや面白さに気付くことが、自国の文化を見つめなおしたり、見方や考え方を広げることにつながる。

指導要領 (目標・内容)	<p>B 鑑賞 (1) ウ 楽曲を聴き想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。</p>	
PYP理念における 評価基準	<b>観点</b>	具体的な児童の姿 (評価方法もふくむ)
	基本概念 Connection Perspective	日本の音楽と世界の音楽を比較し、違いや共通点に気づく。 地域に伝わるさまざまなお祭りの音楽があることを知り、それぞれに価値があることを知る。(ワークシート・記述内容)
	態度 Respect	日本や世界のさまざまな地域に昔から伝わる音楽の特徴をとらえ、それぞれによさや面白さがあることを感じ取る。
	スキル Respecting others	色々なおまつりの音楽を聴き、それぞれのよさや面白さを感じ取りながら聴いている。

### 3. 学習計画

#### (1) 各教科・領域の指導計画と評価事項

オリエンテーション (Central Idea を知らせる。)

探究学習をしていく目的や方法について児童に伝えた。国際的な見方ができるためには、どのような人を目指したらよいかを「学習者像」や「態度」を紹介しつつ児童に考えさせた。また、常にセントラルアイデアについて考えていく大切さを教えた。

	菊の子学習	社会科
第1週		①-1 2枚のお祭りの写真を比較し、気付いたことをグループ毎に模造紙にまとめる。 ・共通点や差異点について考えることができる。 ①-2 グループでまとめた模造紙を互いに見合っ て、共通点や差異点を見いだす。 ・今後の調べ活動に興味をもつことができる。
第2週		②-1 自分の知らないお祭りについて、お祭り毎 のグループで調べていく。 ・お祭りの願いや楽しさ、関わる人々について 項目を立て、共通点や差異点を見つけながら 調べている。
第3週		②-2 自分の知らないお祭りについて、お祭り 毎のグループでまとめていく。 ②-3 自分たちのグループと他のグループの似 ている所、違う所に気をつけて発表をし合う。 ・お祭りにはみんなの願いが込められている。 ・一緒にやるとその地域が仲良くなる。
第4週	③-1 お祭りをするとそのような良いことがあ るのか自分たちでお祭りを創って確かめてみよ う。 ・どんなお祭りが良いかみんなで意見を出し合 う。役割分担を決め、チームで計画を立てて準 備していく。	
第5週	③-2 意見の違いに折り合いをつけるにはどう したらよいか。 ・自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを聞い たりして、試行錯誤していく。	
第6週	③-3 お祭りをみんなで盛り上げるために自分 にできることはないか考える。 ③-4 振り返りをする。 ・様々な表現方法でまとめる。(日記、アルバ ム…) ・CENTRAL IDEA を意識し、どんな場面で 使えるか見通しを持つ。実行する	

#### (2) 指導の工夫 (パフォーマンス課題など)

「祭りをすると本当により仲良くなれるのか」 (菊の子学習の発展としてのパフォーマンス課題)

祭りをすると、より仲良くなれるのか実際に児童が計画・準備・活動する時間を保証する。ゆり組と

※丸数字は、UOI Planner の 2. 探究の流れ (Lines of Inquiry) に対応させたもので、時数を表すものではない。

理科	国語科	音楽科	
①-1 日なたと日かげの特徴調べ ・日なたと日かげの地面の温度の違いについて、観察実験をして調べる。 ・日なたと日かげの特徴の違いについて、観察項目自分で見いだして観察実験する。 ③自分なりの問題を設定して、明るさや湿度温度、植物の様子などについて比べる。			第1週
↓		① おまつりの音をきこう おまつりの音を鑑賞し、どんな音が聴こえるかを聴き取る。 日本と世界のお祭りの音と比べて、違いや共通点を考える。	第2週
①-2 かげの動きと太陽 ・影踏み鬼ごっこをして、午前と午後ではかげの場所が違うことに気づく。 ②-1 太陽の動きが関係しているという予想をもとに時間とともにどう動くのか調べる。(木の陰、棒を立てるなど)	①話し合って、みんなの考えをまとめよう。 ゆり組の児童とクラスでお祭りをするという目的を持ちどんな祭にしたいのか、願いを持つ。	③-1 おはやしの音楽をつくろう おはやしの音楽をつくり、リコーダーで演奏する。 友達と一緒に演奏して楽しむ。	第3週
↓	③-1 グループでの話し合ったことの報告 個人で考えた祭をグループで紹介しあい、共通点や相違点を整理しながらグループでの祭のアイデアを決め、学級全体に報告していけるようにする。	③-2 おはやしの音楽を発表しよう つくった音楽を友達の前で発表し、友達がつくった音楽のよさを感じて認め合う。	第4週
	③-2 調べて分かったことを確かめ 学級で行う祭について、その他の祭を調べ具体的に何をしていくか決める。	③-3 サンバのリズムに挑戦しよう サンバの特徴的なリズムを感じながら、楽器を用いて演奏を楽しむ。	第5週
			第6週

一般の児童が混ざって協働しながら、オリジナルの祭を作り上げていく活動の中で、自分がどう関わり相手を理解し、活動を達成させていったか、その過程を振り返り、Central idea「対象をより理解するためには、共通性や違いを見つけることが大切である。」を理解させていく。

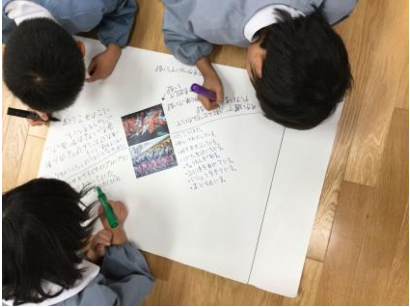





#### 4. 本時の展開（社会科 1／6時）

##### （1）本時の目標

- ・お祭についてわかったことを話し合う活動を通して、共通性や違いについて考えることができる。【PYP】

##### （2）本時の展開

○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ◆評価 ⑩研究の視点
<p>○自分が体験したことのあるお祭りについて経験を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のお祭り</li> <li>・近所のお祭り</li> <li>・有名なお祭り</li> <li>・外国のお祭り</li> </ul>	<p>◇自分たちの知っているお祭りについて、近くにいる人と小グループで話し合うように促した。</p> <p>◇グループに入れない子が出ないように配慮し、入っていない児童には、周りの児童に声掛けをした。</p> <p>◇ゆり組の児童はすでに自分の行っていた国の祭りについて学習をしているので、そのことについても話すように促すことで、彼らが話しやすい雰囲気を作った。</p>
<p>お祭りについてわかったことを書きだそう。</p>	
<p>○2つのお祭りについてわかったことを書きだしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねぶた祭りについて書く。</li> <li>・阿波踊りについて書く。</li> <li>・両方の似ているところについて書く。</li> <li>・両方の違いについて書く。</li> </ul>  <p>○互いに書いたことを伝え合って整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・似ているところを線でつなぐ。</li> <li>・2つの意見をつなげて一つに導く。</li> <li>・違う言い方をしているけれど、同じことを言っているということを理解し、一つにする。</li> </ul> <p>○お祭りにおいて大切にしたいキーワードを模造紙の下に書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えがお</li> <li>・おどり</li> <li>・楽しい</li> </ul> <p>○Central Ideaに関連して学習感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねぶた祭りと阿波踊りには似ているところもあれば、違うところもあることがわかった。</li> </ul>	<p>◇生活団ごとに祭りの写真を貼った模造紙とプロッキーを渡して、わかったことを各自、自由に記述させた。</p> <p>◇阿波踊りと青森ねぶた祭りについての資料をブースに分けて置いておいた。</p> <p>①動画コーナー（パソコンを4台設置）</p> <p>②写真コーナー（各祭りにつき、2セットの写真用意）</p> <p>③インタビューコーナー（拡大して2セット用意）</p> <p>◇動画コーナーは、パソコンを数台用意して、混雑しないように配慮した。</p> <p>◇各自が自分のペースで学びを進めていけるように、時間を多くとった。</p> <p>⑩2つの祭りを比較することに目が向いている児童が各グループに出ているか見て回り、出ていないところには、比較することに目が向くようにCentral ideaを意識するよう促した。</p>    <p>⑩互いに考えたことを話し合うことで学習者像のCommunicatorを意識させた。</p> <p>⑩お祭りの似ているところを見つけさせることで、比較することに目を向けさせた。</p> <p>⑩次時で互いの模造紙を見て、自分たちとの共通性や違いについて考える活動をおこなうので、グループごとの模造紙は掲示できるようにしておいた。</p> <p>◇Central ideaに着目させた。</p> <p>◆学習感想の中で、比較することについて記述することができるか。【PYP】</p>

## 5. 本時に至るまでの児童やグループの学びの記録（資料）

（Central idea にどの程度迫れているか。個別にどのような手立てを行うか。）

### （1）オリエンテーションの設定

探究の単元を始めるに当たり、児童にその学習の目的や方法について理解する場を設定した。今までの菊の子学習でも「探究」という学習について児童に学習方法を示してきた。今回は、さらに「国際的な見方ができる人になろう」という投げかけから、「国際的とはどんなことだろう？」という問いが児童に生まれた。「外国の文化との違いを知ることだ。」「日本以外の人とも仲良くすることだ。」という反応があり、『他の人を違いと共に理解する。』『平和でより良い世界を作っていく。』

『自分から進んで学ぶ。』という国際的な見方の必要性について理解した。

さらに、そのためには「こんな人になろう」という『10の学習者像』を示した。学習者像については、どんな人なのか、児童一人一人が自分の想像したことを元に対話した。対話していく中で、『学習者像』について理解していこうという姿勢が備わってきた。

また、『12の態度』についても提示し、自分が考えた「態度」についての理解を話し合った。

最後に、『セントラル・アイディア』を提示し、学習をする際に常に意識する概念であることを説明した。そして、今回の『セントラル・アイディア』【対象をより理解するためには共通点や違いを見つけることが大切である。】について分かることを記述させた。

### （2）理科

理科の学習では、「日なたと日かげ」の違いに着目して、学習を進めた。最初に、児童は「実感」による意見を発表した。「日なたは裸足で歩くと暑くて、ずっといるとやけどしそう。」「それに比べて日かげは裸足でも大丈夫だった。」「同じ場所でも日なたになっているときと日かげになっているときは全然違った。」という学習を経て、「日なたと日かげの温かさはどのくらい違うのか調べよう。」という問いが生まれ、違いを計測するための道具や場所、時間帯について検討していった。理科の学習においても『違い』を見つけることができ、『セントラル・アイディア』について分かってきた。」という声が上がリ、オリエンテーションの時よりも理解を深めた児童が多かった。また、自然と「比べる」という声も聞かれることが増えてきた。

理科の学習形態において、日なたと日かげの特長の違いを学習者自身が観察項目を見出し、観察していく形態をとった。「同じ時間での日なたと日かげの温度を調べよう。」「違う時間での同じ場所での違いを見よう。」「日かげにもずっと日かげの場所と日なたに変わる場所では違いがあるかもしれない。」「太陽の見え方が関係しているかもしれないから、遮光板で確かめてみたい。」「それぞれの観点から調べたことから分かったことを模造紙にまとめ、グループで考察した。また、模造紙を掲示し、互いに見合い、他のグループで考察したことを共有した。

### （3）学習環境から

学習者像と態度について教室に掲示した。オリエンテーションで触れたことから想像を膨らませたり、どのような態度か話し合ったりする姿も見られた。セントラルアイディアの提示と含めて、児童が意識して学習していく環境を整えた。

### お祭についてグループごとに調べ発表する場面より



### クラスのお祭を実際に作っている場面より



### 3 PLANNER 6～9 ※学習後に記述

6, To what extent did we achieve our purpose?(目的をどの程度達成できたか)

- ・セントラルアイディアを授業前に暗唱させることで、UOIとは関係ない学習においても「共通性や違い」について意識して学習を進めることができてきている。
- ・社会科や理科、音楽科においてもセントラルアイディアを意識して学習を進めることができています。
- ・ゆり組の児童と共に学習を進めたことで、様々な考え方の友達がいて、その友達と共存するために、たくさん話をし、互いの事をより理解していくことが大切であるということに気づくことができた。その際に、セントラルアイディアを用いて相手の意見と自分の意見を比較することで「あ～、〇〇と考えているところは同じだけど、ここは違うんだ。そうしたら、その違うところをもっと話せばいいんだ。」と考えている児童が出てきた。(ふりかえりより)
- ・Central idea への理解が深まった。  
(例1)「対象→みんな(3ふじ・ゆり), 理解→きずなを深める, 共通性→同じ所, 違い→個性」  
(例2) 対象を友達に換えると少しはわかると思います。僕の学校には3年生からゆり組というクラスがあって、いつもは一緒に授業をしないけれど、この時間だけは一緒に理科や社会の授業をしました。友達をより理解するためには共通性や違いを見つけることが大切であるということがわかりました。  
(例3) 友達をより理解するためには、同じ所やちがいをを見つけることが大切であるということになる。「友達」を「お祭り」に変えても同じ事が言える。つまり、どんなことでも同じところや違いを見つけることが大切ということがわかった。  
(例4) 友達の意見とのつながりや違いを見つけることができるようになった。  
(例5)「対象」という言葉を換えれば他の場面でも使えることがわかった。  
(例6) 他の人の意見もよく聞けるようになった。

7, To what extent did we include the elements of the PYP? (PYPとしての学びを、どの程度まで含み込めたか)

- ・自分の分かったことや調べたことを模造紙にどんどん書きこんでいく活動を行ったり、その模造紙に書いたことから話し合う活動をしたりする中で、「考える時間」「話し合う時間」「ノートに記録する時間」のように意識させて学習を進めることができた。
- ・指導者が普段からセントラルアイディアや10の学習者像を意識しながら指導を進めることができるようになってきている。また、key conceptに関しては、児童に意識させるよりも教員が意識することで、発問を投げかけるときに参考となった。
- ・今までは学習面と生活面で別々に児童も意識していたが、attitudeを示すことで、普段からどのような態度で学習に臨むべきかを明確にすることができた。
- ・普段からセントラルアイディアの中にあつた「違いや共通性」について意識して学習に取り組んでいる姿が見られるようになり、他の教科や場面でも活かされていることが見られた。

8, What student-initiated inquiries arose the learning? (学びの中で児童はどのように探究についての主体性を発揮したか?)

- ・ 祭りで使う神輿を作る際に、自分たちで様々な神輿について調べを進め、自分たちなりにテーマをもって神輿を作ることができた。
- ・ 祭りとパーティーの違いについて考え、パーティーにならないようにするために全員で話し合うことができた。
- ・ 祭りについて知るために、グループごとに自分たちにあまり馴染みのない祭りについて調べたが、その際には自分たちで様々な本を探し、そのお祭りについて知ろうとしていた。
- ・ 相手のことをより知るために、たくさん話し合いをし、セントラルアイディアにある「違いや共通性」について理解し、学習を進めることができた。たくさん話し合いをもち、「違いや共通性」を知っていくことで、「相手のことをもっとわかるようになった。」と感想を書いていた。
- ・ 日なたと日かげの学習において、日なたと日かげを様々な視点から比較することができた。自分たちで課題を見つけることの面白さに触れることができた。
- ・ 自分たちで祭りを作る際に、計画から実行まで自分たちの手でやりたいということで、運営係というものがあった。その運営係が祭りの運営に関して調べ学習を進め、どのように運営していったらよいのか考えて実行していた。
- ・ 祭りに屋台を入れた方がよいのかということに関しては、自分たちが調べてきた他のお祭りと比較して、しっかりと祭りにおける「願い」を考えた上でどのような屋台が必要かを話し合い作ることができていた。
- ・ お祭を実行する際に、神輿を作ること考えていた。ただ自分たちで好きに作るのではなく、グループで神輿について調べて、自分たちの祭りのコンセプトにあった神輿を作るために主体的に動いていた。
- ・ 自らの学びをふりかえり、次にどのようにしたらより良くなるのかを客観的に見られるようになってきた。

9, Teacher notes (教師による追記)

- ・ 各教科で同じテーマで学習を進めることで、児童のモチベーションも違った。
- ・ 「探究」という考え方を児童が理解し、各教科においてその考えの基で学習を進めることができたので、「自分たちでやりたい。」という高いモチベーションを維持しながら、学習を進めることができた。
- ・ 学習者像への意識づけが薄かったように感じた。思い出したときには児童へ投げかけたが、全てにおいてそのような投げかけができなかった。
- ・ ゆり組の児童と共に学ぶことを大切にしたい学習だったので、6名のゆり組の児童が2名ずつに分かれて3学級に入って授業を行ったが、時間割を合わせるのが難しかった。
- ・ 7つの祭りを児童に提示し、その中で自分が一番知らない祭りについて調べを進めていくという活動を行ったときの祭りの選び方が難しかった。資料が少ないため、その資料に合わせた祭りしか選ぶことができなかった。もっと様々な祭りを児童から引き出し、その中から自分が知っている祭りと知らない祭りを整理した上で学習を進めていっても良かったのではないかと感じた。
- ・ 上手く学習を進めていくための発問が難しかった。しかし、この単元をおこなうことを通して、今後どのように発問することで他の教科においてセントラルアイディアに近づけていくことができるのかが見えてきた気がした。

### <協議会記録>

#### 〔協議会での質問、及び感想〕

- ① 三年生の社会科は地域理解の学習で、地域で受け継がれてきたものを学ぶという内容であるが、今回の授業では自分の地域でないところの祭りを提示していた。指導要領から逸脱しているのではないか。
- ② 単元の最後には、どのような子どもの姿を目指した授業づくりをしたのか
- ③ 学習の目標が、『共通性や違いを見つけることができる。』であるが、今日の活動は「書き出そう。」というスキルを追っていて、調べたいな、という気持ちが子どもになかった。
- ④ セントラルアイディアの対象という表現が曖昧ではないか。

#### 〔質問の動向と受け止め〕

- ① 今回の授業は単元の導入である。今後、自分の地域にあるお祭りに視点をしぼり、取り上げていく予定である。今回は、ねらいに合わせて、祭りの違いがわかりやすいものを使用した。
- ② 子どもたちが、阿波踊りとねぶた祭の似ているところを比べ、「もっと他のお祭りについて調べてみたい、共通性があるので共感が持てる、共通性がたくさんあった。」などと比較することに興味を持つ姿を目指していた。
- ③ 共通性や違いを見つけていくことから始まり、お祭りについて調べていきたい内発動機につなげていく。
- ④ 対象という言葉をあえて抽象度を高くし、社会だけでなく、理科や他教科にも広げられるような形にした。

### <講師講評>

(児島邦宏先生：東京学芸大学名誉教授)

#### ○授業について

今回の UOI では、スキルの同一性で単元が作られているが、それだけで単元を作るものでもない。今回の場合、理科では「ひなたとひかげ」を取り上げているが、祭に関連させるならば、気候の学習が扱える。例えば、寒い地域の人は祭をするのか考えたり、一年中祭が行われるのかなどを考えたりすると、祭との関連が生まれる。祭に関して言えば、理科を無理に入れる必要はないかもしれない。また、音楽から祭に入るのもいいだろう。音は祭にはつきものであるし、音を聴くだけでなく、踊りから祭にはいっていきのこともありだろう。

#### ○PYP について

PYP プログラムと教科との関わりや、学習指導要領との関わりについてはこのプログラムの核心的な部分で、最後までついて回る問題だろう。このプログラム自体が総合的なテーマとして捉えられている。このプログラムに取り組むに当たり、教科横断的なのか、教科の色が薄くなるのかは、我々のとらえ方の問題になってくるのではない。

この単元の設計書によれば、始めに単元のクエスチョンがあるところがこのプログラムの特徴であり、核心である。このプログラムをやることで、子どもがどんな姿になっていくのか、これを教師も子どもも意識して進めることが大切。また、単元のクエスチョン(Central Idea)を子どもが分かるかたちで出すことが必要である。どの次元で問いかけているのか、焦点を絞ることが必要である。

このプログラムの面白いところは、知的な能力だけでなく、人格的な部分(態度)も入れているところである。スキル・態度が明確になっているからこそ大切にしたいプログラムである。

#### ○本校で PYP を実施することについて

授業時数の問題がまず挙げられる。本校の総合学習の時間は週当たり 2 時間であるが、PYP を実施している学校である同志社では週当たり 8 時間とっているため、時数の不足が生じる。PYP プログラムは知的能力だけでなく、スキルや態度の面の評価も取り入れていて、これは OECD のキー・コンピテンシーの考え方に通じるところもある。このような考え方も取り入れつつ、今後の総合学習に活かし、膨らまし、発展させていくことが必要である。さしあたっては、PYP のアイディアをいただいて、大泉の IB を作っていくことが求められ、またそれができる柔軟性をもつことが求められる。

また、この PYP で、何を指すのかを明確にすることも必要である。単元開発なのか、それともカリキュラム開発なのか、教科の学習まで変更していくのか、射程距離をはっきりさせて開発に向かうようにしなければなら

らない。

さらに、外国語との関わりや、国際学級との関わりなどを考えていくことも必要であり、今までのものを否定するのではなく、本校の伝統も活かしながら豊かにしていくのがいいだろう。

（大野晏且先生：元東京学芸大学附属大泉小学校副校長）

研究を進めていく上で、ハードルになっているものは、共有することが大切である。また、一番のベースになるものは、全教員が共通理解をした上で取り組んでいかなければならない。日本の土俵で研究を進めている先進校を参考にし、研究を進めることが大切である。

さらに、1時間の授業のなかで子どもがどれくらい学べたのか、学びが深まったのか、が重要で、その学びを全体で共有できることが大切である。